

所在地：静岡県静岡市葵区下
1108-8

認証：JGAP

応募区分：団体の部

面積：161ha（構成農場全体の面積）

構成農場：15 農場（すずなりグループが 7 農場）

栽培品目：青果物

（レタス、えだまめ、ブロッコリー、はく
さい、サンチュ、みずな等 21 品目）

取組の紹介

【GAP に取り組んだきっかけ】

- （株）鈴生は、2008 年に創業し、契約加工業務用野菜の生産・販売を実施。耕作放棄地を解消しながら規模拡大を行い（20ha 以上を解消）、これまでに 10 人の独立支援と 7 社のグループ会社を設立。
- 自社で生産した野菜の安全を担保するため、第三者認証の必要性を感じ、2008 年に JGAP 個別認証を取得。GAP の取組を継続しながら、2019 年には自らが団体事務局を担い、グループ会社や地域の農業者とともに JGAP 団体認証を取得。現在は、静岡県・長野県・広島県の 3 県にまたがる広域での団体認証を継続。

【生産工程管理の改善に向けた継続な取組】

- 団体事務局が毎月発行している NEWS LETTER で、事故件数や事故写真等を共有。農場ごとに事故ゼロ日数をカウントすることで、作業員へ労働安全の意識付けを行い、事故件数が約 5 割減少した。
- 団体事務局内に農薬管理責任者を設け、農場で新しい農薬を使用したい場合は事前申請してもらい、使用の有無を判断。
- これまで手書きかつ農場ごとに独自の帳票を活用していたが、スマホ・パソコンから入力できる自社開発システムを構築し情報共有ができるように改善。県内外の生産者とも連携して生産計画、出荷管理ができるようになった。

【経営の改善に向けた取組とその効果】

- 若手社員の成長や雇用定着を目指し、月に 1 回社長と若手社員での勉強会の開催や、人事評価の見える化の実施等を行うことで、離職率が大幅に低下。
- 独自の栽培管理システムを活用し、出荷物に QR コードを添付して取引先に専用 ID とパスワードを付与することで、取引先が直接栽培情報を確認可能に。輸出品にも QR コードを導入し、現地の言語でも栽培情報が確認できるよう、システムの改良を進める。
- 農業者としては初の温室効果ガスの計測を実施し、削減目標を定めながら削減に取り組んだり、「見える化」ラベルの表示を実施したりと環境負荷低減にも積極的に取り組む。「見える化」ラベル★3 つを添付したレタスは価格が約 5 円/個上昇。

【波及効果】

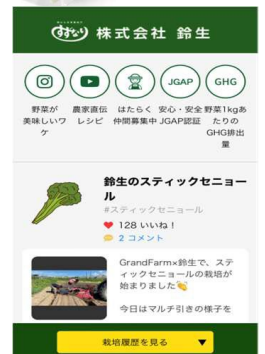
- 地域の農業者を巻き込んで GAP に取り組み、団体認証を取得し着実に構成農場を増やしている。（2019 年 11 農場→2023 年 15 農場）
- 農業者をはじめとして学生や行政等を対象に、事業の参考や知識の向上につながるような視察会や講演を年間 30 回以上開催。



近隣の農業者も交えた JGAP 勉強会



団体事務局が毎月発行している
NEWS LETTER



QR コードを読み込み、栽培情報を確認

HP 等

<https://oretachinohatake.com>